

平成26年 新年のごあいさつ



川越町長
川村 康治

明けましておめでとうございませう。

清々しい新春を健やかに
お迎えのことと、心からお
慶び申し上げます。また、
昨年中は町政各般にわたり
深いご理解とご協力を賜り、
厚くお礼を申し上げます。

昨年は、参議院選挙でね
じれ国会が解消され、諸政
策が一挙に遂行されはじめ
た年でありました。一連の
経済政策で日銀短観による
景況感は改善しているもの
の、今春の消費税増税後の
反動による落ち込みなど楽
観できない情勢です。また、
局地的な豪雨や竜巻被害が
続発するなど、自然が猛威
を振るいました。

このような中、私は昨年
春、二期目の町政のかじ取
りを担わせていただくこと
となりました。健全財政に
配意しながら、防災・減災
対策を主軸とした、健康で
安心して暮らせる社会の実
現に努めているところです。

主な取り組みといたしま
して、防災担当専門職を設
け、防災行政の体制強化を
図るとともに、施設の面で
は、町内五つの避難所に大
地震を感じて避難する防
災ボックスを設置しました。
これによりまして、避難者
自身がボックス内から施設
の鍵を取り出すことが可能
となりました。さらに、避
難所設置等の防災訓練や、
自主防災組織をはじめとし
た地域の防災・減災力の向
上のための取り組みも進め
てまいりました。

また、次世代育成支援対
策としては、川越幼稚園に
おける3歳児保育の拡充を
はじめとした幼児教育施策
の充実を図っているところ
であります。

今年の干支は「馬」です。
古来より人や荷物を運び田
畑を耕すなど、馬は人と共
生してきましたが、モータ
リゼーションの到来により、
古人のパートナーは、人の



ピック、パラリンピックの
開催地が東京に決まり、
「お・も・て・な・し」の
心を再認識し、希望や目標
を新たにした反面、携帯電
話に依存した社会の弊害と
も言える事件の多さに関心
が向けられた一年でもあり
ました。

これらは、心の「ゆたか
さ」が希薄になっていくこ
との象徴ではなからうかと
思います。携帯電話の契約
台数は日本の人口を超えた
と言われている中で、こう
した事件は、その普及スピ
ードに比例して増加してい
るものの、日本経済はこれ
に反比例して低迷を続けて
いると言っても過言ではあ
りません。

そして、いよいよ現実の
ものとなってきました消費

都合で役割を奪われ飼育が
衰退しました。大切なもの
を保つために重要なことは、
その魅力を活かすことにあ
ると思います。私たち現代
人のパートナーは多岐とな
っておりますが、行政サー
ビスはみなさんの安心な暮
らしのためのパートナーで
なければなりません。我々
は、各種行政サービスへの
多様な期待と要望を真摯に
受け止めながら、川越町を
より魅力あふれるまちにす
ることを目指しています。

その魅力を積極的に活かし、
町民のみなさまとの協働を
キーワードにしたまちづく
りをさらに前に進めるため、
なお一層のお力添えをお願
い申し上げます。

終わりに、この一年がみ
なさまにとりまして良き年
となりますよう心から祈念
申し上げます、年の始め
のごあいさつといたします。

税をはじめとする各種の増
税や物価の上昇により、私
たちの生活はさらに「ゆた
かさ」を実感しにくいもの
となることは予想にたやす
いでしょう。しかし、まず
必要なのは、心の「ゆたか
さ」、「ゆとり」ではない
かと思えます。当町では、
あいさつ実行人という取り
組みがされております。ぜ
ひ、町民の皆さまと共にあ
いさつ・声かけ運動を実
践、励行していこうではあ
りませんか。

そのような中、冒頭に申
しました「クログネモチ」
となれるよう議員一同、あ
らためて苦勞と努力を惜し
まず、行政と両輪となって
諸課題に取り組んでまい
る所存です。

最後になりましたが、町
民の皆さま方には、さらな
るご支援とご協力を賜りま
すようお願いいたしますと
ともに、この一年が、皆さ
ま方にとって幸多い年であ
りますよう心よりお祈りい
たしまして新年のごあいさ
つといたします。



川越町議会議長
安藤 邦晃

新年明けましておめでと
うございます。
新春を迎え、議会を代表
いたしました、町民の皆さ
まに謹んで新年のご挨拶を
申し上げます。

また、町民の皆さまに
は、平素から議会活動に深
いご理解とご協力をいただ
き、厚くお礼申し上げま
す。
皆さまは、「人生は苦勞
し努力してこそお金持ちと
なり得て老後の安定に役立
ち幸せに通ずる」といわれ
のある木をご存知でしょ
うか。それは「クログネモ
チ」の木です。1979年
に「川越町の木」としても
指定されております。現在
の「ゆたか」な川越町は、
先人の方々のご苦勞とご努
力無くしては、語ることもあ
りません。老後を将来とす
るならば、将来の財政の安
定に役立ち、町民の皆さま
の幸せに通じるとも言える
のではないのでしょうか。

さて、昨年を振り返りま
すと、2020年のオリン